

群馬県立精神医療センターだより

No.10 平成29年11月 発行

「選ばれる病院へ」

看護部長 茂木 百合子



病院内の敷地の木々が色づき秋到来となりました。当センターは、東京ドーム1個半と広大な敷地に多くの木々があり、四季折々の風景が癒やしくなっています。

医療は、2025年問題に向けて病床の機能分化、在宅医療の推進、地域包括ケアシステムの構築など、病院完結型から地域完結型に体制が変わっていきます。当センターでも入院中から疾病教育や退院前訪問、支援会議を多職種と連携して実施しています。そして、退院後は、訪問看護やデイケアなどを導入し、地域で安心して自立した生活が継続できるように支援を行っています。

当センターでは、「選ばれる病院」をスローガンにしています。患者満足度、職員満足度調査を実施し、患者さん、ご家族、地域の施設や医療福祉機関の方々からはもちろん、病院職員からもこの病院で働いて良かったと思えるような、選ばれ愛される病院作りに取り組んでいます。

また、看護部として、3つの目標を掲げています。1つ目は、パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)を導入し、安心・安全で質の高い看護の提供。2つ目は、人材育成と自己研鑽の推進。3つ目は、多職種と連携した退院前訪問の実施や訪問看護の充実です。

これからも、人と人のふれあいを大切にし、心のかよい合う患者さん主体のやさしい看護を看護部一丸となって提供していきたいと思っております。今後も皆様の応援とご協力をお願いいたします。



当センターのホームページにて毎週ブログ「つれづれ便り」を更新しています。是非ご覧下さい。

URL:http://www.gunma-seishin.jp/07_blog/blog_index.html

基本理念


1. 患者・家族そして全ての県民のために
2. 良き精神科医療は良き社会をつくる
3. こころの時代を支える精神科医療

運営方針

1. 人間の尊厳を尊重し人権に配慮した医療
2. 都道府県立精神科病院の設置義務に基づいた政策医療
3. 客観性と透明性と説明責任を重視した医療
4. 適切な医療技術による良質で安全な医療の提供
5. 社会復帰と社会参加を目指した医療
6. 多職種チーム医療の徹底
7. 障害者にやさしい地域ネットワークづくり



治療抵抗性統合失調症薬 クロザピンとは？



クロザピン(一般名 商品名はクロザリル)は治療抵抗性統合失調症治療薬とされ、他の抗精神病薬で十分に治療されたにもかかわらず、思うように回復しなかった統合失調症の患者さんの治療に用いられます。

経緯・効果と副作用



ヨーロッパでは1971年から使用されましたが、副作用として血液中の白血球の数が減ってしまい細菌感染などへの抵抗力が落ちて生命的危機に至ることがわかり、1975年から販売中止となっていました。その後、他の薬が効かない統合失調症の治療に効果があることが証明され、また副作用を避ける方法も進歩したため1989年からアメリカ合衆国でまた使用されるようになり、日本では2009年から使用されています。

どこで使える？




日本ではクロザピンを使用する医療機関、医療従事者(医師、薬剤師)、薬局は事前にクロザリル患者モニタリングサービス(CPMS)に登録しなければなりません。また、医師や薬剤師は事前に研修を受ける必要があります。病院では、白血球減少に対応する血液内科医や糖尿病に対応する代謝・内分泌内科医との連携が必要とされます。県内の医療機関では当院と群大病院がクロザピンによる治療を行っています。

使用の実際は？



クロザピンを使用する患者さんは、使用するための条件を満たしていることを確認された上で、事前に説明を受け、使用に同意していただきます。血液検査で白血球数や血糖値などの問題がないことを確かめた上でCPMSに登録されます。原則として使用開始から18週間は入院し、他の薬を服薬中止した後に、少しずつクロザピンの量を増やしていきます。この間、週に2回から週に1回の血液検査を行い、白血球数や血糖値などに問題がなく、薬の量も適切であることをCPMSに報告します。26週間連続して基準を満たすと血液検査は2週間に1回となります。

当院では2011年以来、35人の患者さんがクロザピンによる治療を受けました。以前は入院を繰り返していたのが、クロザピン治療後は全く入院しなくなり「(クロザピンを用いる)前より大分症状が改善した。」という方がおります。一方で7人の方が白血球減少、イレウスなどの副作用やその他の理由でクロザピン使用を中止しました。



リハビリ病棟の紹介



A病棟(重症治療病棟)

長期入院の重症患者さんの治療を担っています。患者さんの生活リズムや社会生活イメージの確立と拡大を目的に、多職種と連携したリハビリテーションを行い、退院を目指して治療を行っています。

B病棟(リハビリ集中・高齢者治療病棟)

社会復帰に向けて様々なリハビリテーションを専門的に行っています。高齢者・長期入院患者さんに対して、安心して生活できる場を提供できるよう、社会資源などを活用して退院に向けた準備を行っています。



施設見学ツアー

退院に向けてイメージづくりのため、老人福祉施設やグループホームなどに、グループで見学に行っています。病院を退院した先輩患者さんが案内してくれることもあります。

さまざまな
リハビリテーション
を通して退院に
向けた準備をします。

知っ得コーナー

患者さん全員を対象とした多職種による疾病プログラム。

【多飲水】【おやつの話】【転倒予防】
【大変なこともあるけれどやっぱり地域生活っていいな】【手洗い】【薬の話】
【歯磨きの話】などのテーマで行っています。



季節ごとの レクリエーション

自らの精神障害や精神疾患の経験を生かしピア(仲間)として支え合う活動をする人たち(ピアサポーター)とのおしゃべり会を開いています。

ピアサポーター との交流

診察予約について

初診の方は予約制になっています。事前にお電話での予約をお願いします。

- ・受付窓口 地域医療連携室（医療福祉課） 電話0270-62-3311(代)
- ・受付時間 月～金（土日祝日・年末年始を除く） 8:30～17:15

●受診の際にスムーズな治療が行えるように次のことをお尋ねします。

- ・相談者について
お名前、対象者との関係、連絡先（電話番号）
- ・対象者（患者様）について
お名前、性別、生年月日、住所、精神科受診歴、現在の症状、身体合併症の有無
- ・入院希望の場合
患者様本人及びご家族の意向など

●他の医療機関を受診中の方は、紹介状をできるだけお持ちください。

■外来診療 月～金（土日祝日・年末年始を除く） 受付8:30～11:00

外来担当医（平成29年11月1日現在）

	再 来	初 診
月	須藤・三浦	福田・武井
火	武井・赤田・盛林	塚越・神谷
水	神谷・森岡・長谷川	中野・芦名
木	今井・高橋・塚越・福田	三浦・赤田
金	赤田・芦名・三田・中野	長谷川・盛林



群馬県立精神医療センター

〒379-2221 伊勢崎市国定町2丁目2374

TEL 0270-62-3311

FAX 0270-62-0088

URL <http://www.gunma-seishin.jp>

- JR国定駅から徒歩10分
- 上武国道（国道17号）三和町交差点から車で5分
- 北関東自動車道伊勢崎ICから車で5分